

本日の授業は、地方上級教養試験の判断推理の対策授業ということで、今までにない内容の問題についての授業でした。具体的には図形の問題が多く、暗記というわけにはいかないの、どのように進めていくのか非常に楽しみに見学させていただきました。

まず、総長先生がおっしゃったことは、図形の問題なので、モノトーンの物に色を付けるということでした。そうすれば紙の中でも立体的に見やすくなり、なるほどなと思いました。どうしても私はそのまま考えてしまいがちなので、発想が乏しく自分の授業においてもなかなか学生に伝えたいことを伝えきれないことがあるので、今回の授業見学はとても意味があったように感じました。また、今回の授業でもう一つなるほどと思うことがありました。

それは一つの問題の後に類題を解くということでした。これはPT・OTの国家試験対策では、今まではあまり行われていなかったことと思われ、このやり方なら問題の解き方をマスターしやすいのではないかと感じました。

ただ、今回の公務員試験対策の中でも一つ絶対ブレないことがありました。それは、総長先生が必ずみんなが理解できたかを全員に聞くということでした。これは学生全員を試験に合格させるという信念がそこにあると思われ、どんな試験でも、試験の内容が変わっても共通しているので、普遍的な理念なのだと感じました。

最後に、総長先生は担当教員が間違った時に「先生でも間違ふのだから大丈夫。」とユーモアなアドバイスをして先生の緊張をほぐしたり、学生にゆとりを持たせていらっしゃった場面がありました。以前の授業見学で、「学生の心配は私が引き受ける。」とおっしゃっていたことから、ここでもそれがみられ、苦しい勉強が楽しくなる授業だと感じました。